

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：12613

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2017

課題番号：16K16794

研究課題名(和文) ジェイムズ・ジョイスは歴史の悪夢を見るか：亡霊表象の理論／歴史的読解

研究課題名(英文) Does James Joyce Dream of the Nightmare of History? : A Theoretical and Historical Study of Representations of Ghosts in Joyce's Works

研究代表者

小林 広直 (KOBAYASHI, Hironao)

一橋大学・大学院法学研究科・日本学術振興会特別研究員 (PD)

研究者番号：60757194

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、最新の文学理論であるTrauma StudiesおよびGhost Studiesの知見を参照し、ジェイムズ・ジョイスの初期2作品『ダブリンズ』と『若き日の芸術家の肖像』における亡霊表象を分析した。

上述の研究課題名にあるように、20世紀初頭のアイルランドは「悪夢」という名の歴史に取り憑かれていた。本研究が明らかにしたのは、ジョイスが亡霊的な人物「姉妹たち」のフリン神父や『肖像』のウルフ・トーンを登場させることで、それぞれの主人公がいかにして、アイルランドを支配する政治的且つ宗教的権威(とそのイデオロギー)がもたらしたトラウマ的経験を乗り越えようとしているかを描いたことである。

研究成果の概要(英文)： In this research, while paying attention to the two latest literary theories, Trauma and Ghost Studies, I interpreted the representations of ghosts in James Joyce's early two major works; "Dubliners" and "A Portrait of the Artist as a Young Man."

As is shown in my research title, the history as nightmare haunted colonial Ireland in the early 20th century. By this research it was revealed that Joyce uses the ghostly figures such as Father Flynn in "The Sisters" and Wolfe Tone in "Portrait," in order to depict how each protagonist, including Stephen Dedalus who is suffering from the vision of the hell provided by Father Arnall's sermon, is trying to work through his own traumatic experience caused by the political and religious authorities and their haunting ideologies.

研究分野：英文学(アイルランド文学)

キーワード：ジェイムズ・ジョイス James Joyce アイルランド 憑在論 イデオロギー トラウマ モダニズム
ジャック・デリダ

1. 研究開始当初の背景

ジェイムズ・ジョイスの作品群はモダニズム文学の最高峰と位置づけられ、「文学理論」の隆盛期にあつては、構造主義、ナラトロジー、フェミニズムなどを応用した、「理論の実験場」とも言うべき事態が展開された。1990年以後はポストコロニアリズムの趨勢の中で、ジョイスの故郷である「アイルランド=大英帝国の植民地」という歴史的観点から読み直す研究がアイルランドを中心に Seamus Deane や Declan Kiberd、Emer Nolan らによって行われた。しかし、2000年代に入ると文学理論の流行の衰退と相まって、ジョイス研究においては、植民地の問題を引き継ぎつつ、種々のコンテクストを再解釈する(新)歴史主義的な研究に移行しているというのが今日のジョイス研究の状況である(Andrew Gibson, Len Platt, Anne Fogarty など)。

本研究は、ジョイスの『肖像』と『ユリシーズ』における亡霊表象が、個人のトラウマ的体験だけでなく、植民地アイルランドの経験した歴史的トラウマと相互に関わりあうことを、2年間の研究で明らかにすることを目指した。そこで前提となるのは、亡霊表象の分析を軸に据えた作品の個別的研究、および亡霊表象を読解する際の理論的枠組みを更新することである。理論的枠組みに関しては、90年代以後隆盛を誇ったポストコロニアル研究とトラウマ・スタディーズの成果を継承しつつ、ここにジャック・デリダの「憑在論(hauntology)」に始まるゴースト・スタディーズの知見を付け加えたい。歴史について考える際、死者は生きているでも死んでいるでもないという特殊な形で生者に取り憑いているというデリダの知見は、ジョイス研究だけでなく文学研究全体を見渡しても、未だ十分に展開されていない新しい理論的研究領域である。

本研究の独創性は、ジョイス作品における亡霊の表象研究(理論的読解)を植民地アイルランドの歴史研究(歴史的読解)に接続することにある。ジョイスの歴史認識のあり方が、近代主義的あるいはキリスト教終末論的「進歩主義」に根ざしておらず、あり得たはずの歴史、すなわち「可能態」(アリストテレス)としての歴史であった、ということはこれまで Hugh Kenner や Declan Kiberd などによって指摘されてきた。しかし、先行研究で十全に分析されていないのは、あり得たはずの仮想的自己や歴史とは、亡霊というジョイス作品に頻出するモチーフにこそ接続されるべき点である。なぜなら、亡霊が亡霊たり得るのは、彼らが皆安らかな死を得られずに、生者に「事後的な」解釈を求めるからであり、亡霊の出現とは、私(たち)はなぜ非業の死を遂げたのか、それについて考えよ、という倫理的要請だといえる。また、アイルランドから自発的亡命を遂げつつも、生涯記憶の中で故郷ダブリンに想いを馳せ

続けたジョイスにとって、ダブリンそれ自体が亡霊であった。さらに、ホメロスから聖書、ダンテ、シェイクスピア、そして同時代の文芸復興運動(W・B・イエイツ、グレゴリー夫人、J・M・シング)に至る過去の文学的達成を批判的かつ発展的に「遺産相続」しようとしたジョイスにとって、先行するテクストは亡霊であったということが指摘できる。デリダの「憑在論」は、Harold Bloom の言う「影響の不安」におけるエディプス的1対1の「父子関係」から、先行作家を亡霊たちとすることによって、複数の亡霊に取り憑かれた後続の作家が、いかに過去を遺産相続するかという問題系に発展しうる。以上のことから、本研究は、文学研究全般に通底する亡霊表象の学術的探求においても新しい視座を提供することになるだろう。また、アイルランドだけでなく旧植民地国家のすべてがいかに歴史(的トラウマ)と対峙するかという極めて大きな問題に接続される可能性を本研究は秘めている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ジェイムズ・ジョイスの初期作品『ダブリナーズ』と『若き日の芸術家の肖像』の2作品における亡霊表象を精査することによって、両作品に登場する様々な亡霊(的登場人物)が、いかにアイルランドの歴史を表象するかという、ジョイス作品全体を貫く問題系に繋がっていることを明らかにする。ジョイス研究において、主に60年代以後の趨勢であった文学理論を応用した理論的読解と、近年アイルランド、及び英国を中心に盛んに行われている歴史主義的読解を組み合わせることによって、未だ先行研究の少ない文学理論と歴史研究の両輪を駆使した研究領域を開拓することを目的とする。未だに根強い「芸術至上主義者≒モダニスト的」ジョイスというイメージを刷新し、亡霊の表象によって故国の歴史的トラウマと対峙する「政治的」ジョイスを析出する。

3. 研究の方法

(1) 19世紀末から20世紀初頭のアイルランドの歴史を再検討する。アイルランド史に関する書籍だけでなく、新聞や雑誌もその対象とする(*Irish Times*, *Freeman's Journal*, *Irish Homestead*, *Daily Express*, *The Leader*, *Punch*, *Egoist*, *Little Review* など)。これらは、インターネット上のアーカイヴあるいは早稲田大学、一橋大学のマイクロ・フィルムで閲覧可能であるが、現在利用できる数は限定的であるため、アイルランドの国立図書館に赴いて、資料を横断的に分析する必要がある。

(2) さらに理論的枠組みとしてジャック・デリダの「憑在論」に端を発した「ゴースト・スタディーズ」を再検証することで、

亡霊表象の分析における理論的枠組みを強化する。存在を確たる固定的なものではなく、亡霊の如き生死を揺れ動く「取り憑き」として再解釈したデリダの憑在論は、*Ghosts: Deconstruction, Psychoanalysis, History* (1999) や *The Spectralities Reader* (2013) などのアンソロジー、あるいは Colin Davis の *Haunted Subjects* (2007) によって目下研究が盛んに行われている「最新の」文学理論である。これらの研究を踏まえたジョイス研究は、雑誌論文で数本発表されているのみであるため、できるだけ早く英語論文として世界に発信することの意義を感じている。

4. 研究成果

平成 28 年度はジェイムズ・ジョイスの『若き日の芸術家の肖像』の亡霊表象の 2 つを検討し、いずれも口頭発表と論文化を行った。

第一に、『肖像』第 3 章で描かれる「地獄の説教」は、作者及び主人公のステューヴン・デダラスにとって「トラウマ的経験」であり、その影響は亡霊のように彼に取り憑いていたわけであるが、作者は説教に心底怯える主人公を描くその一方で、神父の説教にいくつかの「間違い」（誤った引用）を含ませることで、説教の正統性、延いてはカトリック教会の正統性を密かに切り崩していること、さらには主人公の芸術信条である〈我仕えず〉が説教から「奪用／我有化」されていることが明らかになった。この際に扱った 17 世紀イタリアの G・P・ピナモンティの著作、『キリスト教徒に開かれた地獄』（1688）については、原点および英訳を当てることで先行研究が指摘していなかった点を発見できたと自負している。

第二に、『肖像』において、アイルランド独立運動の起源と見なされるウルフ・トーンの亡霊的表象を分析した。1798 年の「ユナイテッド・アイリッシュメンの反乱」の指導者の 1 人であったトーンは、作者自身が「近代（政治）運動の英雄」と見なしているにも拘わらず、『肖像』では第 5 章に 3 度その名前が言及されるのみである。しかし、まだ 6 歳半と幼いステューヴン少年の空想に出てくる「ボウデンズタウン」という地名は、トーンが埋葬されている場所である。作者はトーンの名前を隠したまま、ここで主人公がナショナリストの歴史に出会う瞬間のひとつ、言うなれば歴史というイデオロギーから「呼びかけられる」を密かに書き込んでおり、トーンについて知ることは主人公にとってアイルランドの「悪夢としての歴史」に目覚める瞬間であることが明らかになった。

平成 29 年度はジョイスの実質的なデビュー作である短篇「姉妹たち」（のちに短篇集『ダブリナーズ』の巻頭を飾る）に登場するフリン神父が、改稿を通じてより亡霊的な存在に変化していることを明らかにした。ベル

クソンとフロイトを発展的に継承したジャン・リュック・ジリボンの「不気味な笑い」という概念を応用し、主人公の夢に取り憑く神父の「灰色の顔」や、少年を不安な気持ちにさせた神父の微笑みをナラトロジー的に読み解くことで、作者がカトリシズムという名の“haunting ideology”とどのように対峙していたのかを炙り出した。

〈引用文献および主要参考文献〉

- Joyce, James. *Dubliners: Authoritative Text, Context, Criticism*. 1914. Ed. Margot Norris. New York: Norton, 2006.
- . *A Portrait of the Artist as a Young Man*. 1916. Ed. John Paul Riquelme. Text Edited by Hans Walter Gabler and Walter Hettche. New York: Norton, 2007.
- . *Ulysses*. 1922. Ed. Hans Walter Gabler with Wolfhard Steppe and Claus Melchior. New York: Random House, 1986.
- Boheemen-Saaf, Christine van. *Joyce, Derrida, Lacan, and the Trauma of History*. Cambridge: Cambridge UP, 1999.
- Boyd, Elizabeth F. “James Joyce’s Hell-Fire Sermons.” *Modern Language Notes* 75 (1960): 561-71.
- Bradley, Bruce. *James Joyce’s Schooldays*. Forward by Richard Ellmann. Dublin: Gill and Macmillan, 1982.
- Buse, Peter and Andrew Stott, eds. *Ghosts: Deconstruction, Psychoanalysis, History*. New York: St. Martin’s Press, 1999.
- Caruth, Cathy. *Unclaimed Experience: Trauma, Narrative, and History*. Baltimore: John Hopkins UP, 1996.
- Davis, Colin. *Haunted Subjects: Deconstruction, Psychoanalysis and the Return of the Dead*. Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2007.
- . “État Présent: Hauntology, Spectres and Phantoms.” *The Spectralities Reader: Ghosts and Haunting in Contemporary Cultural Theory*. Ed. María del Pilar Blanco and Esther Peeren. London: Bloomsbury, 2013. 53-60.
- Derrida, Jacques. *Specters of Marx: The State of the Debt, the Work of Mourning and the New International*. Trans. Peggy Kamuf. New York: Routledge, 1994.
- Doherty, James. “Joyce and Hell Opened to Christians: The Edition He Used for His ‘Hell Sermons.’” *Modern Philology* 61 (1963): 110-19.
- Duffy, Christopher. *The Wild Goose and the Eagle: A Life of Marshal von Browne 1705-1757*. London: Chatto & Windus,

- 1964.
- Elliott, Marianne. *Wolfe Tone: Prophet of Irish Independence*. New Haven, Yale UP, 1989.
- Ellmann, Richard. *James Joyce*. New and rev. ed. New York: Oxford UP, 1982
- Fogarty, Anne. "Where Wolfe Tone's Statue Was Not": Joyce, 1798 and the Politics of Memory." *Études Irlandaises* 24 (1999): 19-32.
- Gabler, Hans Walter. "The Seven Lost Years of A Portrait of the Artist as a Young Man." *Approaches to Joyce's Portrait: Ten Essays*. Ed. Thomas F. Staley and Bernard Benstock. Pittsburgh: U of Pittsburgh P, 1976. 25-60.
- Gibbons, Luke. *Joyce's Ghosts: Ireland, Modernism, and Memory*. Chicago: U of Chicago P, 2015.
- Gibson, Andrew. "History, All That: Revival Historiography and Literary Strategy in the 'Cyclops' Episode in Ulysses." *History and the Novel*. Ed. Angus Easson. Cambridge: D.S. Brewer, 1991.
- Gifford, Don. *Notes for Dubliners and A Portrait of the Artist as a Young Man*. 1967. 2nd ed. Berkeley: U of California P, 1982.
- . *Ulysses Annotated: Notes for James Joyce's Ulysses*. Berkeley: U of California P, 1988.
- Jones, Ellen Carol. "History's Ghosts: Joyce and the Politics of Public Memory." *Journals of Irish Studies* 25 (2010): 3-17.
- Kenner, Hugh. *Dublin's Joyce*. 1955. New York: Columbia UP, 1987.
- Kiberd, Declan. Introduction. *James Joyce. Ulysses*. London: Penguin, 1992.
- . *Ulysses and Us: The Art of Everyday Living*. London: Faber, 2009.
- Loyola, Ignatius. "The Spiritual Exercises." Trans. George E. Ganss. *Ignatius of Loyola: The Spiritual Exercises and Selected Works*. Ed. George E. Ganss, R. Divarkar, Edward J. Malatesta, and Martin E. Palmer. New York: Paulist P, 1991. 113-214.
- Noon, William. "James Joyce and Catholicism." *James Joyce Review* 1 (1957): 3-17.
- . "James Joyce: Unfacts, Fiction, and Facts." *PMLA* 76 (1961): 254-76.
- Norris, Margot. *Suspicious Readings of Joyce's Dubliners*. Philadelphia: U of Pennsylvania P, 2003.
- Pinamonti, Giovanni Pietro. *L'Inferno Aperto al Cristiano Perché Non Ventri: Considerazioni delle Pene Infernali Proposte a Meditarsi per Evitarle: Opera*. Bologna: Antonio Pisarri, 1688. / Monza: Tipografia Corbetta, 1836.
- Pinamonti, S. J., F. *Hell Opened to Christians: To Caution Them from Entering into It*. Dublin: James Duffy, 1889.
- Potts, Willard. *Joyce and the Two Irelands*. Austin: U of Texas P, 2000.
- Rabaté, Jean-Michel. "Silence in Dubliners." *James Joyce: New Perspectives*. Ed. Colin MacCabe. Sussex: Harvester P, 1982. 45-72.
- . *James Joyce and the Politics of Egoism*. Cambridge, Cambridge UP, 2001.
- Riquelme, John Paul. *Teller and Tale in Joyce's Fiction: Oscillating Perspectives*. London: Johns Hopkins UP, 1983.
- Seed, David. "The Voices of Church: A Dialogical Approach to the Retreat Section of Joyce's A Portrait of the Artist." *Literature & Theology: An International Journal of Theory, Criticism, and Culture* 9 (1995): 153-64.
- Senn, Fritz. "He Was Too Scrupulous Always: Joyce's 'The Sisters.'" *JJQ* 2 (1965): 66-72.
- Sullivan, Kevin. *Joyce among the Jesuits*. New York: Columbia UP, 1958.
- Thrane, James R. "Joyce's Sermon on Hell: Its Source and Its Backgrounds." *Modern Philology* 57 (1960): 172-98.
- Tindall, William York. *A Reader's Guide to James Joyce*. 1959. New York: Syracuse UP, 1995.
- Tone, Wolfe Theobald. *The Autobiography of Theobald Wolfe Tone*. Ed. Sean O'Faolain. London: Thomas Nelson & Sons, 1937.
- Walzl, Florence L. "The Liturgy of the Epiphany Season and the Epiphanies of Joyce." *PMLA* 80 (1965): 436-50.
- . "Joyce's 'The Sisters': A Development." *JJQ* 10 (1973): 375-421.
- アルチュセール、ルイ 『再生産について—イデオロギーと国家のイデオロギー諸装置』西川長夫・伊吹浩一・大中一彌・今野晃・山家歩訳、平凡社、2005年。
- 大島一彦 『ジエイムズ・ジョイスとD・H・ロレンス』旺史社、1988年。
- 金井嘉彦 『ユリシーズの詩学』東信堂、2011年。
- . 「“queer”の裏側と「無関心な大衆」のパラドックス：ジョイスの「姉妹たち」再考」『言語文化』第51号、2014年、3-20頁。
- . 「一九〇四年の「姉妹たち」、あるいは一一〇年のパララックス」『ジョイスの罫——『ダブリナーズ』に嵌る方法』金井嘉彦

彦・吉川信編著、言叢社、2016年、35-54頁。

川口喬一 「“That Rosicrucian There” —— Joyce の ‘The Sisters’ 推敲の問題」『英文学研究』第42号、1966年、159-70頁。
ジリボン、ジャン＝リュック 「不気味な笑い」『笑い／不気味なもの——付：ジリボン「不気味な笑い」』H・ベルクソン、S・フロイト、原章二訳、平凡社ライブラリー、2016年、275-350頁。

田多良俊樹 「薔薇十字会員の亡霊を降ろす／祓うこと——ジョイス「姉妹」の改稿とイエイツへの応答」『幻想と怪奇の英文学Ⅱ』東雅夫・下楠昌哉／責任編集、春風社、2016年、37-58頁。

フロイト、ジークムント 「想起、反復、徹底操作」『フロイト著作集6』井村恒郎、小此木啓吾他訳、人文書院、1970年、49-58頁。

--- 「不気味なもの」『フロイト全集17』須藤訓任・藤野寛訳、岩波書店、2006年、1-52頁。

南谷奉良 「芸術と生と情熱の〈エゴシステム〉——ジェイムズ・ジョイスの『若き生の断章』（“Chapters in the Life of a Young Man”）」『Joycean Japan』27、2016年、4-19頁。

宮田恭子 『ジョイス研究』小沢書店、1988年。

結城英雄 『『ユリシーズ』の謎を解く』集英社、1999年。

--- 「『ユリシーズ』における亡霊たち」『亡霊のイギリス文学 豊穡なる空間』富士川義之・結城英雄編、国文社、2012年、243-55頁。

横内一雄 「盲者の視覚——『若き日の芸術家の肖像』における語りと視覚」『ジョイスの迷宮——『若き日の芸術家の肖像』に嵌る方法』金井嘉彦・道木一弘編著、言叢社、2016年、12-37頁。

米本義孝 『言葉の芸術家ジェイムズ・ジョイス——『ダブリンの人びと』研究』南雲堂、2003年。

ラプラッシュ／ポンタリス 『精神分析用語辞典』村上仁監訳、みすず書房、1977年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

①小林広直 「死んだ神父の灰色の顔は何を語るか——ジェイムズ・ジョイス「姉妹たち」における亡霊と〈不気味な笑い〉」『英文学』、早稲田大学英文学会、第104号、2018年3月、1-16頁 (査読あり)

②小林広直 「Haunted Castle としての Clongowes Wood College——『若き日の芸術家の肖像』の第1章における歴史的英雄の亡霊表象について——」『Joycean Japan No.28』、日本ジェイムズ・ジョイス協会、2017年6

月、19-34頁 (査読あり)

〔学会発表〕(計3件)

①小林広直 「死んだ神父の『灰色の顔』は何を語るか——ジェイムズ・ジョイス『姉妹たち』における亡霊と〈不気味な笑い〉」新英米文学会第48回大会、千葉工業大学、2017年8月26日

②小林広直 「Haunted Castle としての Clongowes Wood College——ジェイムズ・ジョイス『若き日の芸術家の肖像』における亡霊表象について」日本英文学会関東支部第13回大会、フェリス学院大学、2016年11月12日

③小林広直 「「間違い」だらけの地獄の説教と「狡猾な」スティーヴン／ジョイスの戦略——『若き日の芸術家の肖像』第3章再読」日本英文学会第88回大会(於京都大学)、2016年5月29日

〔図書〕(計1件)

①小林広直 「(我仕えず)、ゆえに我あり——間違いだらけの説教と狡猾なスティーヴン／ジョイスの戦略」金井嘉彦・道木一弘編著『ジョイスの迷宮——『若き日の芸術家の肖像』に嵌る方法』、言叢社、2016年12月、(340頁)(99-118頁担当) (査読あり)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 広直 (KOBAYASHI, Hironao)

一橋大学・大学院法学研究科・日本学術振興会特別研究員 PD

研究者番号：60757194